

### 新支部の紹介

#### 台東区支部が 設立されました

二〇一六年五月十九日浅草文化観光センターにおいて十一名の発起人の方々により設立総会が開催され、台東区支部が設立されました。轟豊蔵氏が支部長に就任し、他に十名の役員が選任されました。これで現在の日本善行会の支部数は六十九となりました。



轟 豊蔵 台東区支部長



浅草寺雷門

台東区は東京を代表する浅草・上野を中心とする観光、商業、工業地域で昔から「粋」な人々の代名詞「江戸っ子」の住む街です。単に東京に住んでいるだけでは江戸っ子とは言いません。三代に亘り浅草、上野、日本橋、神田、深川エリアに住んでいることがその条件です。内外の観光客でにぎわう「浅草寺」西郷隆盛の像で知られる「上野公園」等々でありにも有名なエリアです。すぐ近くには人気の東京スカイツリーがあります。日本善行会が設立八十周年を来年度に迎える節目の年に東京の中心に新支部が設立されたことをお祝い申し上げます。

## 支部だより

#### 青森県青森支部

#### 児童の交通指導 五〇年



平成二十七年に日本善行会青森支部長職を辞し、同支部の顧問となった須郷勝雄さん(青森市、九二歳、最高齢の県交通指導員)は、同市青柳の荻町小学校前の交差点に立ち、朝と午後の計二時間程、登下校する子供達の交通指導を行っている。

須郷さんが声を掛けると白い手袋をはめた手を握り返す子や照れくさそうにする子がいるという。子供たちの安全な登下校を祈る学校は大感謝である。

須郷さんが交通指導を始めたきっかけは昭和三十五年ごろの長男の小学校入學PTA活動の一環として見守りを始めたという。県交通指導隊には昭和四十二年の発足と同時に入隊。同年荻町小前に引越す。以来交差点に立ち続けて五〇年。平成二十七年六月末、自宅に女の子からはがきが届き、感謝の気持ちをはがきいっぱい書かれていたという。ほっこりした気分になる。路地の早咲きの桜が芽吹く頃、須郷さんに会いに行こう。きつといはるはす。

#### 静岡県浜松支部

#### 定期支部総会の開催

三月二十七日(日)第十三期定期支部総会を開催し、全議案が承認されました。

また、藤田耕三日本善行会会長、鈴木康友浜松市長他多数の方々より丁寧なるメッセージを頂きありがとうございました。

本年度より、役員の異動もあり、新たな心で活動致す所存でございます。何卒、よろしくご指導の程お願い申し上げます。



#### 福岡県筑豊支部

#### 平成二十七年年度 第八回秋季善行 表彰伝達式及び 第八回定期総会

平成二十八年二月七日



## ふる里自慢

#### 愛媛県支部

#### 紙の町の伝統工芸

#### 日本文化の伝統を守り伝える



四国中央市は、香川県徳島県、高知県と四県が接する四国の中央にあり、県庁所在地へほぼ一時間で結ばれるという好条件の場所にあります。製紙、紙加工工業においては日本屈指の生産量を誇り、紙製品の工業製造出荷量全国一位でもあります。「紙」への感謝と「ふれあい」をテーマにしたイベント「四国中央紙まつり」

四国中央市は、香川県徳島県、高知県と四県が接する四国の中央にあり、県庁所在地へほぼ一時間で結ばれるという好条件の場所にあります。製紙、紙加工工業においては日本屈指の生産量を誇り、紙製品の工業製造出荷量全国一位でもあります。「紙」への感謝と「ふれあい」をテーマにしたイベント「四国中央紙まつり」



う意味で「愛水引」と呼ばれる結納飾り、金封(のし袋)美術工芸品などの加工品にも取り組み、日本文化の伝統を守り伝えていきます。また、最近話題の地元、新宮地域のお茶をふんだんに使った霧の森大福がインターネット上の品評会で、和菓子、和スイーツ部門の最高賞の金賞を獲得。無農薬で丁寧に栽培された新宮のかぶせ茶だけを使用した抹茶の香り溢れる美味しい大福です。四国の人たちは小さな時からお遍路さんへのお接待をするのを当たり前として



育ちボランティア活動に多くの者が率先して参加しています。我が四国中央市では、子どもたちは地域の宝として青パトが常時市内を巡回し、毎日多くのボランティアが登下校時の見守り活動を続けています。また毎月五日は青パト百余台が市内一斉巡回パトロール、「子どもを守り育てる日」の四月入學日と十一月五日は、各種団体協力して登下校の子ども達の見守り活動、市内一斉の清掃活動等々、各種イベントへの積極的に参加する人達が多いのは、お接待の心があるからではないでしょうか。皆様も四国八十八ヶ所巡りいかがですか?お待ちしています。

「第二回日本善行会創立八十周年記念事業準備委員会」及び「第一回八〇年のあゆみ」編集委員会  
第二回の「日本善行会創立八十周年記念事業準備委員会」と第一回の「八〇年のあゆみ」編集委員会が、五月二十三日(月)に開催された。相澤勝野副会長、石井、高田、山下の各常務理事、石毛理事が出席した。「記念事業準備委員会」では、記念式典及び祝賀会の開催日時、記念品をどうするか等の検討が行われた。「あゆみ編集委員会」では、「八十年のあゆみ」の基本的考え方、具体的内容、今後の進め方等について議論がなされた。次回の「準備委員会」及び「あゆみ編集委員会」は、六月十六日の総会後に開催することとなり、引き続き所要の検討や必要な作業を進めていくこととなった。

### 善行川柳

選者 東 逸平

○あれそれで 通じる言葉で 日々長閑 北海道 齊藤 勉

評/あれ!あれ!そうじゃないのよ、それぞれよ!多弁は要らない老夫婦のなんと長閑な一日でしょう。

○桜ちり 善行活動は 散らないよ 群馬県 横江 勇

評/その心意気ですね。善行は継続なり。

○善行の 豊かな心 花と咲く 東京都 松田多恵子

評/綺麗に纏まりました。善行の花が街を埋める程の日本の姿にしたものです。

○今日もまた 会える楽しみ ポランティア 香川県 丸野 忠義

評/ボランティアに題材を取った作句が他に五編ありました。このように一つの題を決めて詠む方法を「題詠」と詠んでいます。与えられた題を57.5に詠むのです。もう一つは「雑詠」と称して詠む方法です。今、投稿されている皆さんの多くは「雑詠」ですね。

善行の文字を入れて詠むと「題詠」となります。

### 訃報



#### 葬送

五月二十七日午前、湯浅 巖本会元理事 長・副会長は、享年九十一歳にてご逝去され、高崎市内の斎場で多くの関係者に見送られ、厳かに告別式が行われました。

同氏は地方では歴史ある群馬県高崎支部

(設立以来三十二年目)の設立以来二十余年を支部長として高崎市内の会員増強にご尽力され、また、群馬県内に桐生支部、前橋支部、群馬県北毛支部を立上げた功労者です。そして昭和六十二年より本会理事、常務理事、理事長・副会長の要職を歴任され、まさしく今の日本善行会の基礎づくりに貢献されました。ここに、生前のご功績を感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。